性奴教師

鮎川　かほる

　わたしの名前は、高橋真理。私立学園に勤務する２８歳の数学教師です。わたしには別の顔があります。担任している生徒達全員の奴隷なんです。教え子達に飼われている肉奴隷がもうひとつの顔です。生徒達の命令には絶対服従です。逆らうことは許されません。そんな話はあまりにも現実離れして嘘だとお思いでしょうね。でも本当のことなんです。教師でありながら、わたしは心の奥底に潜めていたマゾ性をえぐり出されてしまったので

す。こんなことになってしまったのはわたしの心の弱さが原因なのです。

　わたしの下腹部には刺青が彫られています。恥ずかしい刺青です。

「肉奴隷女教師」という黒い文字

その下に

「牝犬真理」

とはっきりと刻印されています。お尻にも刺青があります。右の尻たぶには

「変態マゾ女」

左の尻たぶには

「淫乱女教師」

というあまりにも卑猥で残酷な文字。消すことのできない奴隷の証です。

　それだけではありません。乳首にはリング

ピアスが装着されています。リングはつなぎ目が固定され、簡単には取り外しができないようになっています。そのリングにはチェーンでぶらさがった鈴がつけられ、わたしが少しでも動くとその鈴もリンリンとまるで生徒に飼われてるわたしをあざ笑うかのように鳴り響く仕掛けになっています。

　生徒達によって肉奴隷としての改造をされている私の身体‥‥‥永久脱毛によって陰毛がすっかりなくなった股間のクリトリスにもリングが填められています。これも取り外せないようになっています。リングの内側に四つのかぎ状の突起があり、取り外そうとしても陰核の根本に爪のように食い込んでいる突起によって、はずせないようになっているので

す。このリングをはめられてからいつもクリトリスは充血し、ずきずきと疼いているんです。本当にいつもなんです。突起が当たっている部分は一日中むずむずして、指で慰めたくなります。でも勝手に指を使うことは禁止されています。オナニーをしたくなったら教え子の生徒達にお許しを請うように決められています。オナニーをさせてくださいとは恥ずかしくて言えません。それに生徒達には教師としての毅然とした姿を持ち続けるように命じられています。ですから教師らしい地味なスーツの下は淫らに発情していても教師としての威厳をもった姿でいなくてはならないのです。

　わたしが生徒達の奴隷として調教されはじ

めたのは、半年ほど前のことです。わたしのマンションに担任している亜紀さん達が訪れて来たのです。意外なことでした。生徒の訪問など初めてのことです。担任している生徒達に嫌われていることはよく知っています。できの悪いクラスなんです。どうしてこんなクラスの担任をしなければならないのか、わたしは日々不満を持っていました。ですから生徒達に辛く当たっていました。わたしを見る生徒達の目に敵対心がありありと感じられるようになりました。でもわたしはそんなことはお構いなしに、こんなクラスとは深く関わりたくない気持ちで過ごしていました。

　先日も亜紀さんには耳に付けたピアスのことで強く指導したばかりです。

「先生、こんにちは」

亜紀さんの明るい声がドアホンから聞こえました。ドアを開けると亜紀さん達４人の女子生徒が立っていました。どうしてわたしのマンションが分かったのでしょうか。もちろん住所は伏せてあります。不審に思いながらもせっかく来てくれたのだからと思い、部屋に招き入れました。部屋にあがった亜紀さん達にわたしはいきなり襲われてしまったのです。殴られました。顔ではありません。お腹を何度も殴られました。膝蹴りが入りました。悲鳴をあげて倒れこんだわたしは、女子生徒たちの足で蹴られもしました。背中も蹴られました。臀部も足も蹴られました。鳩尾に膝が入ったあまりの苦しさに嘔吐していました。

嘔吐しているわたしを亜紀さん達は容赦なく蹴りました。涙が出ていました。嘔吐し終わったわたしはロープで縛られました。身動きできなくなったわたしは、さらに暴行されました。土曜日と日曜日の二日間、わたしは暴行をされ続け、頭の中は亜紀さん達への恐怖心でいっぱいになりました。亜紀さん達が少しでも手を動かすとまた殴られるのではないかと両手で顔をかばい防衛反応を無意識に見せるようになりました。そこにはもう教師としての威厳などありません。無法地帯となった部屋の中では、理不尽な力関係だけがわたしを支配しているのです。わたしは支配される弱者であり、亜紀さん達がすべてを支配する空間なのです。

両手を縛られ、吊されました。吊されたわたしのお尻にイチジク浣腸が注入されました。しばらくたつと薬液によってわたしのお腹はゴロゴロして便意が高まってきました。

「･･･お、おトイレにいかせてください･･･」

わたしは必死に懇願しました。でも亜紀さん達は笑って見ているだけです。もう切羽詰まった状態になって、涙声でトイレに行かせてくださいと懇願し続けました。お腹が痛くてたまりませんでした。少しでも力を緩めると恥ずかしい汚物が飛び散ってしまいそうです。全身が脂汗で湿っています。とうとう限界はやってきました。女子生徒達の目の前で排便をしてしまいました。薬液に溶けた軟便を排泄した後、発作が起こって固形便も排泄して

しまいました。その姿を撮影されました。泣きながらあまりにもみじめな姿を撮るのはやめてとお願いしましたが、スマホのシャッター音は次々と無機質な響きで聞こえてきました。両手をつられたまま排便し、そしておしっこも漏らしてしまいました。

　二日間でわたしは全てを失ったのです。教師としての威厳も人間としての尊厳も失ってしまいました。亜紀さん達は撮影した画像や動画でわたしを脅かしました。逆らったりしたらこの写真を公開するといってきました。